

様式 3

GIGA スクール構想（1人1台端末）下における
 「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善」調査研究事業
 <中間報告書【推進校】>

学校名	磐田市立磐田北小学校
-----	------------

1 取組の状況

日時	取組	詳細
5月中旬	4～6年生に1人1台端末貸与	
6月9日	学府研修会	中学校のタブレット活用実践参観、事後研修
6月23日※1	提案授業	タブレット活用実践、事後研修
8月下旬	1～3年生に1人1台端末貸与	
9月22日※2	指導主事を招聘した研究授業	タブレット活用実践、事後研修
11月4日※3	指導主事を招聘した研究授業	タブレット活用実践、事後研修
11月24日	学府研修会	小学校のタブレット活用実践参観、事後研修
上記外日程※4	各学年研修	タブレット活用実践授業公開、事後研修

※1

学年・教科・単元	6年 国語科「文の組み立て」
目標	主語・述語を見付け、重文・複文を比較したり、分類したりする活動を通して、文中の主語と述語の関係を捉えることができる。（知識及び技能）
手立て	主語・述語を見付けること（赤・青に色付けする）、重文・複文の違いを見付ける（比較・分類する）ことを通して、主語・述語の関係に気付けるようにする。
子どもの表れ	○色分けされていることで一目で大切な部分を確認できた。 ○級友の回答が見えるので自分の意見と違うと意見を変えてしまう。
学びの深まり	タブレットの共有機能を活用することで、考えの可視化ができ、自分の頭の中を整理することができた。教材と自己との対話はタブレットを操作しながらできた。しかし、手軽に共有できるがゆえに子ども同士の直接の話し合い、聞き合い、練り合いが減ってしまい、深まりが見えなかった。



※2

学年・教科・単元	4年 算数科「がい数」
目標	解決の目的に合った処理の仕方を考える活動を通して、目的に応じた見積もりができる。(思考力・判断力・表現力)
手立て	タブレットを使って買う物を組み合わせながら考える操作活動を行い、買い物の場면을意識させ文章問題が苦手な児童にも取り組みやすくした。
子どもの表れ	○友達の考えを可視化することで、子どもたちが対話したいという意欲をもって活動できた。 ○考えを提出しなければと一生懸命考えていた。また、提出することを楽しんでいて、表現しようとする気持ちが高まった。
学びの深まり	子どもたちの思考が教師にとってこれまで以上に見えやすくなったこと、子ども同士でも見えやすくなったことで学びを深めるきっかけができた。



※3

学年・教科・単元	5年 国語科「大造じいさんとガン」
目標	大造じいさんの残雪に対する気持ちを考える活動を通して、大造じいさんの気持ちの変化をとらえることができる。(思考力・判断力・表現力)
手立て	大造じいさんの心情が大きく変わったところに線を引き、全体での共有は画面上で行うが、その理由については、子どもたちの声で語る、話し合いでの共有とする。自分の考えが、友達の考えを聞いてどのように再構築されていくのか、教師もその変容を捉えながら、読みを深めていく。
子どもの表れ	○考えを深めていく場面で本文に戻ったり、タブレットでの理由に戻ったりしていた。 ○タブレットとの対話だけではなく、子どもたち同士で意見を聴き合い深め合うことができた。
学びの深まり	ICTの利用により友達の意見をすぐに知ることができ、自分の考えを深める助けになった。児童の考えを伝え合う場面とICT活用場面との区別がはっきりとできていたため、友達の表情や言葉遣いを感じながら話し合いをし、意見を深めることができた。



※4

1～3年 実践 使用タブレット iPad

1年 音楽	鑑賞の学習で、どのような音が聴こえてくるのかに気を付けて聴き、そこから自分なりに想像したことを表現し、交流し合うことができた。
1年 算数	「ひきざん」の単元で、具体物や言葉、式、図を用いて表現する活動を通して、繰り返し下がりのある減法の計算の仕方を考える授業では、ロイロノート上のブロック操作を通して、これまでに学習してきた求め方をもとに、計算の仕方を考えることができた。
2年 国語	「主語と述語」の単元では、人物の動作や物の様子を表すには主語と述語が必要なことに気付くことを目的とし、授業では、教師がワークシートをテレビに映し色の線を引いて説明した。自分と同じ考え、違う考えを比較することで、主語には「は」「が」がついていることに気付くことができた。
2年 図画 工作	「つなげてきって」の単元で、新聞紙を切ったり、つなげたりして想像したものを作る授業では、ICTの共有機能で自分では気付かなかった友達の作品のよさに気付くことができた。
3年 総合	見学してきた店の画像や動画をまとめて紹介する活動を通して、商店街のよさに気付いたり、商店街の理解を深めたりできた。
3年 外国 語	外国語でやりとりをする自分の動画を見て、さらによい伝え方の工夫を考えることができた。視点を設けて動画を見ることによってやりとりする様子を客観的に捉えることができた。

4～6年 実践 使用タブレット Chromebook

6年 国語	「みんなで楽しく過ごすために」の単元で1年生と ZOOM を使って楽しく交流することができた。実際の交流イベントに向けて主体的に計画を立て取り組む姿が見られた。
6年 算数	「立体の体積」の単元では、体積の求め方を画面上で書き込み、操作しながら立式することができた。共有機能によりいろいろな立式方法を知ることができ、考えが深められた。

特別支援学級 実践 使用タブレット iPad、Chromebook

道徳	子どもたちが意地悪な態度を抑制し、あいさつや人に優しくすることの良さに気付くことができるように、映像を用いたパワーポイントで教材を提示し、要旨を入力させた。あいさつをしたり、人に優しくしたりすると良いことに気付くことができた。
国語	無人島に持って行くものランキングを作って、友達と話し合う授業では、全員のランキングをテレビの画面に映し、友達の考えを知ることができるようにすることで、話し合いながら、自分の考えを広げることができた。

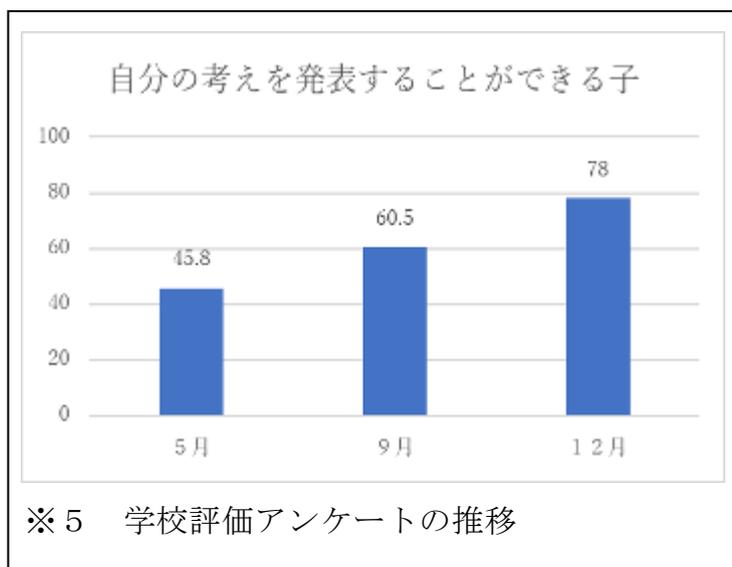
2 今年度の成果

(1) 自分の考えを表現できる子が増えた→学校評価 32.2%UP

今年度、本校は主体的・対話的な学習を推進する中で「対話」を大切にしたいと考え、研究課題を「子どもの対話から学びを深める教師の出（ICT 機器の効果的活用）」として取り組んできた。これまで、対話を大切にしたい授

業を行ってきた過程において、当初、行ったアンケートから、「自分の考えを公表すること」に対して抵抗があると考えている子が多くいることが見えてきた。

※5のように、できると答えている子の割合は5月のアンケートでは、45.8%であり、半数を下回っていた。そのため、ICT 機器（主にタブレット）を授業の中で効果的に活用することで発表への意欲付けや自信につながるのではないかと考え、各学年で前述（※4）のような取組を行った。それらの取組により、学校評価の数値は、7月60.5%、12月78%と上昇した。（※5）



タブレットの導入により、自分の考えを表現する方法がこれまでよりも増えたため、このような結果になったのではないかと考える。自分の意見を色や絵で表現するだけでなく、カメラ機能を使ってその場の様子を記録として表現することもできた。それにより、多くの事象を捉えやすくなったり、比較することで子どもたちの考えを深めたりすることができた。以前は、授業の中で表現（ノートに考えを記入、考えを公表、グループでの発言）ができなかった子どもも、タブレットに考えを入力することで提出することができた。

（2）子どもの学習意欲と教師の研修意欲の向上→教員意識97%

今年度は、まずはいろいろな授業や場面で活用していくことで子どもたちの意欲を高め、教師も活用場面の研修を行うことができた。（※6）（※7）

各学年の成果（※6）

【教師】

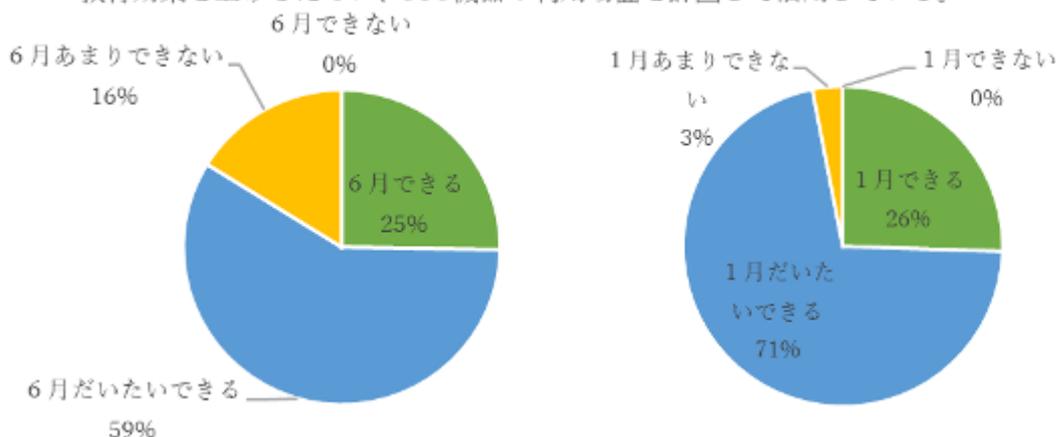
- どのようなことができるのかを試行錯誤しながら取り組むことで、よりよい活用方法が分かってきた。
- どの教科でも、教科の特性を考えながら活用することができた。
- 個の考えを全体で共有することが効率よくできた。
- 子どもたちの考えをすぐに把握でき、それを生かして授業を展開できた。
- 実践を重ねることで、よりよい活用方法が分かってきた。

【子ども】

- 操作方法に限らず、内容についても進んで子どもたちが教え合ったり、共有し合ったりすることができた。
- 表現がしやすいので、自分の考えを友達に紹介できることに喜びを感じている子どもが増えた。
- 耳だけの情報だけでなく、目と耳からの情報で自分の考えと比較して捉えられる子どもが増えた。
- 意見の共有化によりたくさんの考えを知り、意見を深めることができた。

※7 教員アンケート

教育効果を上げるために、ICT機器の利用場면을計画して活用している。



3 来年度へ向けた課題

(1) 共有化からより深い学びの対話へとつなげること

タブレット活用の中で多くのメリットを感じることができたが、多くの課題が挙げられた。メリットとして挙げられた「共有化」についてである。考えを「可視化」し「共有」することをタブレット上で簡単に行うことができるが、言葉にできない、表現できない気持ちを可視化できていたかどうかは疑問が残る。タブレットで言葉を可視化するだけでなく、その裏にある子どもの思いを、対話を通して引き出していくことが必要である。

(2) 子どもの姿から見える課題→安易な共有で分かったつもり

友達の意見を目で見て分かったつもりになっていたり、安易に多数派に流れたりする様子が見られた。共有化する時には画面上の共有だけではなく、子どもたち同士の対話が必要である。子どもが対話することによって納得したり、もっと意見を聴いてみたいという思いを教師が吸い上げたりすることで本当の共有化につながるのではないかと考える。

(3) 単元を見通して ICT 機器の活用計画→単元構想に具体的な活用場면을

単元を見通して ICT 機器をどのように使うかを具体的に考え、子どもがどんな姿になっているか、活動では何をどのように行うかを考える必要があった。また、子どもたちが活用するだけでなく、教師側が授業の見取りや子どもたちの成長記録としてうまく情報機器を活用して、子どもの思考の過程を見守り、教師の出として支援ができるよう活用場面を考えていきたい。

(4) 自分の考えを表現できる子の育成

主体的・対話的で深い学びを実現した子どもたちの姿を「自分の考えを表現することができる子」とし、考える子どもたちを育てていきたい。そのため、引き続き「コンピュータなどを使って、自分の考えをまとめたり、分かりやすく相手に伝えたりすることができる」ことを評価指標とし、主体的・対話的で深い学びを目指した授業づくりを行っていきたい。